

地域の豊かな「食」を体験！郷土料理教室の開催

- 子どもと子どもを持つ若い親世代を対象に、地域の伝統野菜などの食材を使用した調理体験・食体験や生産者との交流を通して、山形県の農林水産物や食文化等への関心を高め、自分たちの食を支える農業の理解促進を図る郷土料理教室を県内2地域で開催した。
- 幼児、児童期から豊かな食体験をすることで、将来、地域の農林水産業や食文化を理解した消費者になることが期待される。



【取組の内容】

- 最上地域
生産者から最上伝承野菜についての話を聞き、最上赤にんにく、勘次郎きゅうり、畑なす、最上かぶ等を使った調理体験を行った。
(実施回数 3回、総参加者：小学生、保護者等61名)
- 置賜地域
生産者から伝統野菜についての話を聞き、えだまめや宇津沢かぼちゃ等を使った調理体験を行った。
(実施回数 1回、参加者：小学生14名)

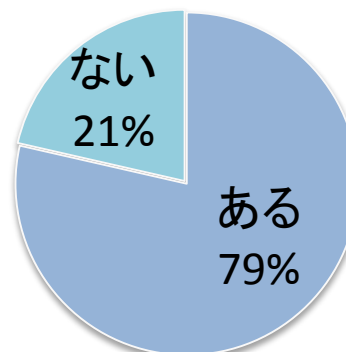


地域の「食」を学び！作り！食べる！

【取組の成果】

- 子ども達だけでなく、郷土食の調理体験や食体験の機会が少なくなっている幼児、児童を抱える若い親世代に、地域の「食」と「農」についての理解を深めてもらう機会となった。
- 料理教室開催後のアンケートでは、約8割の保護者が「参加後、子どもの食に対する意識に変化があった」と回答した。

料理教室参加後の子どもの食に対する変化



<自由記載>

- ・家に帰って進んで料理をしたがった。
- ・作った料理をもう一度作ってみたいと言っていた。
- ・食事の支度を手伝いたがるようになった。